

メディア活用研修モデル事例の調査研究Ⅱ ～ICT化時代に対応したメディア研修モデルプラン～

全国視聴覚教育連盟

目次

I 調査研究の背景とねらい	… 2
II 研修モデルプランの事例	… 3
○研修モデルプラン1「映像メディア（ビデオ機器・タブレット端末）の基本的な撮影・編集技術の習得に関する研修プログラム」	… 3
○研修モデルプラン2「これからのメディア教育の指導者を養成する研修プログラム」	… 5
○研修モデルプラン3「モバイルメディア・ソーシャルメディアを活用したネットコミュニケーション力の向上を目指した研修プログラム」	… 7
○研修モデルプラン4「ICT支援員、メディアコーディネーターの養成に関する研修プログラム」	… 9
III 調査研究のまとめ	… 12

◇全視連担当者	(執筆順)
---------	-------

丸山裕輔（全視連専門委員 新潟県五泉市立五泉小学校教頭）：主査

西村 稔（全視連専門委員 埼玉県春日部市視聴覚センター指導主事）

矢部重秋（全視連専門委員 千葉県総合教育センター研究指導主事）

照井 始（全視連副専門委員長）

I 調査研究の背景とねらい

知識を基盤とした自立、協働、創造モデルとしての生涯学習社会の実現が求められている。そのような現況にあつて、学習を通じて多様な人が集い協働するための体制・ネットワークの形成など社会全体の教育力の強化や、人々が主体的に社会参画し相互に支え合うための環境整備は、喫緊の課題である。課題解決に向けて、研修・学習センター、教材センター、情報・研究センターとしての機能を有する視聴覚ライブラリー・センターには、生涯学習の推進を担う存在として大きな期待がかけられている。

しかしながら、情報通信技術の進展に伴うメディアの変貌と共に、視聴覚ライブラリー・センターの機能には変化が求められている。たとえば、教材センターとしては、パッケージ型の教材を貸出するだけではなく、オーダーメイドなネット型の教材を作成・配信したり、地域固有の資料をデジタル化し教材として提供したりすることがあるだろう。また、情報・研究センターとしては、教材自体に関する情報だけではなく、多様化・個別化する学習ニーズに合わせた学習情報を広報誌やインターネットなどの様々な媒体で提供しなければならないだろう。また、ソーシャルメディアに代表される新しいメディアについて研究を進める役割も担うだろう。研修・学習センターとしては、映像制作・発信が容易になった現在であるからこそ、デジタルカメラやビデオカメラなどの機器活用のスキルだけではなく、視聴覚教育の理論に関する知識・理解の側面をより重視する。また、高度情報化社会には欠かせないスマートフォンやタブレット端末といったモバイルメディアを研修の対象として取り込む必要がある。

そこで、本調査研究では、視聴覚ライブラリー・センターの研修・学習センター機能に着目し、これからの時代に対応した研修プログラムのモデルプランを作成することをねらいとした。本調査研究は、昨年度の「メディア活用研修モデル事例の調査研究」の続編である。昨年度は、総合教育センターや生涯学習推進センター、視聴覚センターで実際に行われている研修事例を取り上げ、研修プログラムを例示した。本年度の調査研究は、全国視聴覚教育連盟の専門委員が、未来社会でさらに普及するであろうスマートフォンやタブレット端末を視野に入れて、研修プログラムを考案した。実際にセンターで行っている研修内容や方法に、新規の研修内容や方法を組み込んで想定的な研修モデルプランとした。

このモデルプランをベースにして、これから実際に研修を実施し、評価することによって、よりよい研修モデルプランに改善していきたいと願っている。次章以降に提案する研修モデルプランが、全国各地の視聴覚ライブラリー・センターの研修・学習センター機能に寄与し、実際に研修を行う際の道標や指針となれば、幸いである。

<引用参考文献>

- 1) 「第2期教育振興基本計画」 平成25年6月14日 閣議決定
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/14/1336379_02_1.pdf
- 2) 「時代の変化に対応した地域における教育メディア利用の推進体制の在り方について（報告）」
平成7年8月10日 生涯学習審議会 社会教育分科審議会教育メディア部会

II 研修モデルプランの事例

本章では、全国視聴覚教育連盟の専門委員が考案した4つの研修モデルプランを、以下に紹介する。

○研修モデルプラン1 「映像メディア（ビデオ機器・タブレット端末）の基本的な撮影・編集技術の習得に関する研修プログラム」

1 研修モデルのねらい

映像メディアとして、ビデオ機器やタブレット端末を取り上げる。機器や端末の基本的な撮影技術や編集技術を習得させ、映像作品制作に慣れ親しませることを通して、視聴覚教育の振興や映像コミュニケーションの推進を図り、あわせて映像素材の撮影協力員の育成を図る。

2 研修モデルの特徴

ビデオ機器やタブレット端末の確実な操作技術を習得させるための研修プログラムを想定すると、以下の表になる。撮影技術や編集技術は、繰り返し行うことで定着が図られる。そのため、「学び直し」の時間を設定した。この研修プログラムは、2日間を使って行うことを想定している。

（研修時間の目安、1日目：8時間、2日目：8時間）

3 研修の対象

生涯学習（一般市民）、学校教育（学校教員）

4 研修モデルの内容

No.	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	<p>「オリエンテーション：デジタル社会における映像メディア（ビデオカメラ・タブレット端末）による表現」 〔1時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル社会における映像メディアの意義と表現法 	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル社会における映像コミュニケーションの意義と役割 メディアリテラシーとしての映像表現の位置づけ デジタルカメラやタブレット端末を活用した映像作品の紹介
2	<p>「ビデオカメラを使った基本的な撮影の仕方」 〔4時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ビデオカメラを使った撮影の仕方 目的意識を持って動画の撮影 撮影技術の向上 <p>「タブレット端末を使った基本的な撮影の仕方」 〔1時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使った撮影法 	<p>【演習と実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なビデオカメラの撮影の仕方 アングル・フィックスなど 効果的な撮影の方法 明るさや撮影技術について <p>【演習と実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の操作法 タブレット端末を活用した動画撮影

3	<p>「ビデオ素材の保存について」 〔1時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ素材の保存と活用 <p>「タブレット端末の動画投影について」 〔1時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末による動画の活用 	<p>【演習と実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォルダーの作成 ・保存方法について ・保存した素材の活用について <p>【演習と実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターや電子黒板の操作法 ・タブレット端末とプロジェクターや電子黒板を組み合わせた動画投影法
4	<p>「コンピュータを活用した基本的な編集について」 〔4時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な編集の仕方 ・ねらいとする作品のイメージ (絵コンテ等の活用方法) ・作品の編集・調整 <p>「タブレット端末を活用した基本的な映像編集について」 〔1時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な編集の仕方 	<p>【演習と実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編集ソフトウェアの使い方 ・ビデオ素材の編集 (トリミング、トラディションなど) ・タイトルを入力 ・BGMの入力 ・DVDへの出力 <p>【演習と実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末における編集ソフトの操作法 ・基本的な映像編集の仕方
5	<p>「成果の発表の相互評価」 〔3時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編集等の学び直し ・作品の発表会 ・自己評価及び相互評価 ・ビデオ特派員からの講評 	<p>(演習と実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ編集の学び直し ・作品の保存と発表 ・発表方法の工夫 ・スマートフォンを活用した映像撮影法の紹介

*ビデオカメラ機器の研修後にタブレット端末の研修を位置づけたが、機器とタブレット端末を選択して、長時間研修することも想定される。

(埼玉県春日部市視聴覚センター指導主事 西村 稔)

○研修モデルプラン2 「これからのメディア教育の指導者を養成する研修プログラム」

1 研修モデルのねらい

- ・メディア教育に関する基本的な知識の習得や伝統的なメディアである16ミリ映写機及びICT機器の操作を実際に体験し、適切に利用できるようにする。
- ・これからのメディア教育における着目されているタブレット端末を取り上げ、基本的な操作法を習得したり、効果的な活用法を理解したりして、実際に授業で活用できるようにする。
- ・情報モラルや著作権等メディア教育の今日的な課題について、スマートフォンを話題に取り上げながら、講話や実習を通して理解する。

2 研修モデルの特徴

- ・メディア教育の今日的な課題とICT機器等の操作について学び、メディア教育の指導者の養成をはかる研修を16時間で構成した。
- ・従来の視聴覚メディアと、これからのデジタルメディアとしてのタブレット端末やスマートフォンを対比しながら、メディア教育の内容や方法を研修できるようにした。

3 研修モデルの対象

学校教育（学校教員）

4 研修モデルの内容

No.	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	「ICT教育の現状と課題」 [1.5時間] ・ICT教育の現状と課題を把握し、ICTを活用した教育について理解を深める。	【講義】 ・教育の情報化の目指すもの、国の動向 ・従来のICTを活用した教育 ・タブレット端末を活用した教育 ・教員のICT活用指導力の向上
2	「メディア教育と情報モラル」 [2.5時間] ・子どもたちを取り巻くネット社会の問題について理解し、情報モラル教育の指導法について学ぶ。	【講義・実習】 ・安全なインターネット利用について ・ネット依存やネットいじめ ・ネットパトロールからわかる若者の現状 ・青少年のネット利用の現状 ・情報モラル教育の進め方について
3	「映像メディア（16ミリ映写機・タブレット端末）の仕組みと操作方法」 [4時間] ・16ミリ映写機のしくみを理解し、正しい操作方法を習得する。 ・タブレット端末の機能を理解し、映像撮影法を習得する。	【講義・実習】 ・16ミリ映写機の仕組みと操作方法 ・映写するときの注意点 ・16ミリテープの補修と管理 ・フィルム視聴による映像文法の理解 ・タブレット端末の操作法及び映像撮影法 ・ショートムービーの利点の理解と活用法

4	<p>「メディア教育と著作権・肖像権」 [2時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権の概要について知り、著作物を利用するときの注意点について理解を深める。 ・スマートフォンによる撮影に関して、著作権や肖像権について理解する。 	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権とは ・学校における著作物の利用 ・インターネット配信からの違法ダウンロードについて ・スマートフォンによる撮影の著作権について ・スマートフォンによる撮影の肖像権について（安易な利用法の落とし穴や危険性等）
5	<p>「デジタルコンテンツの活用」 [2時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHKデジタルコンテンツやデジタル放送を利用した授業づくりについて理解を深める。 ・タブレット端末とデジタルコンテンツを組み合わせた授業づくりについて理解を深める。 	<p>【講義・実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材の利用と効果的な授業のあり方 ・デジタル放送と授業デザイン ・NHK for Schoolの体験 ・グループ学習や個人学習におけるデジタルコンテンツの活用法 ・子ども自身がデジタルコンテンツを作成する場合の利点と留意点
6	<p>「ICT機器の活用と授業の創造」 [4時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるICT機器の接続方法と操作方法を学び授業デザインをつくる。 ・未来社会におけるタブレット端末を活用した学校や授業について語り合う。 	<p>【講義・実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の接続と操作方法 ・ICTを活用した授業の創造 ・ICTに関する実践事例研究 ・タブレット端末を活用する授業のデザイン ・タブレット端末を活用した学校づくりや家庭学習との連携等の未来像

(千葉県総合教育センター研究指導主事 矢部 重秋)

○研修モデルプラン3 「モバイルメディア・ソーシャルメディアを活用したネットコミュニケーション力の向上を目指した研修プログラム」

1 研修モデルのねらい

情報化の進展に対応した日常的なメディアリテラシーに関して、ネットコミュニケーション力を向上させる。一般市民向けの研修としては、映像表現や交流する力を高めることをねらいとする。また、学校教員が受講することによって、モバイルメディアやソーシャルメディアを活用して授業を楽しく豊かなものにしていくことも、ねらいとしている。

2 研修モデルの特徴

モバイルメディアとソーシャルメディアを対象とした研修プログラムを10時間で構成する。受講生のニーズや要望によって、研修時間を長くすることも想定される。

また、講座を連続受講することや、メニュー性として選択して受講したりすることも可能とする。

3 研修の対象

生涯教育（一般市民）、学校教育（学校教員）

4 研修モデルの内容

No	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	「コミュニケーションとしてのメール活用法」 〔1.5時間〕 ・高度情報化社会におけるコミュニケーション手段としてのメールについて理解し、活用法を習得する。	【講義】 ・高度情報化社会におけるコミュニケーションの形態とメディアリテラシー 【実技と演習】 ・メールやショートメッセージの活用法 ・メールの作成、送信 ・ショートメッセージの作成、交換
2	「情報コミュニケーションとしてのホームページ」 〔1.5時間〕 ・情報収集や情報交流の手段としてのホームページの利用法について理解し、検索法を習得する。	【講義】 ・情報収集や情報交流の手段としてのホームページの機能と実際 ・ホームページ活用の利点と留意点を 【実技と演習】 ・ホームページの閲覧方法 ・ホームページの検索の仕方
3	「映像表現・コミュニケーションとしてのスマートフォンやタブレット端末」 〔2時間〕	【講義】 ・メディアリテラシーとしての映像表現 ・映像作品モデルの実際

	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやタブレット端末を活用した映像（静止画）表現について理解し、撮影・編集・投稿の方法を習得する。 	<p>【実技と演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真の撮影、組写真の構成 写真の修正、加工、保存の方法 写真の投稿や共有の仕方
4	<p>「情報発信やコミュニケーションの手段としてのブログ」 [1.5 時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報交流やネットコミュニケーションの手段としてのブログの特徴を理解し、ブログの活用方法を習得する。 	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信やコミュニケーションの手段としてのブログの利点と留意点 <p>【実技と演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ブログの開設法 ブログの更新の仕方 ブログによる交流の方法
5	<p>「ソーシャルメディアとしての Facebook」 [1.5 時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションツールとしてのソーシャルメディアの典型である Facebook の特性を理解し、利用法を習得する。 	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ソーシャルメディアとしての Facebook の機能と活用法 <p>【実技と演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> Facebook の登録の方法 Facebook の投稿の方法 Facebook を活用した交流の実際とその方法
6	<p>「これからのコミュニケーション手段としての Twitter」 [1.5 時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいコミュニケーションの手段としての Twitter について理解し、その活用法を習得する。 	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル社会におけるコミュニケーションツールとしての Twitter の機能と活用法 <p>【実技と演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> Twitter の登録の方法 Twitter の投稿の方法 Twitter の検索、参画の方法

（新潟県五泉市立五泉小学校教頭 丸山 裕輔）

○研修モデルプラン4「ICT支援員、メディアコーディネーターの養成に関する研修プログラム」

1 研修モデルのねらい

地域視聴覚ライブラリーの活動を支えるメディア愛好家や学生ボランティアなど、地域のメディアニーズをサポートし、市民のメディア利用を支援する協力者を養成する。

2 研修モデルの特徴

ICT支援員、メディアコーディネーターを養成し、地域のメディアニーズをサポートする協力員を養成する。地域創生に力を発揮するメディア協力員の養成のために、地元テレビ局やCATV局、大学や専門学校と連携を図り、多角的に研修する。本プランでは、20時間の研修時間を想定している。

3 研修の対象

生涯教育（一般市民）、学校教育（大学生、専門学校生）

4 研修モデルの内容

No.	研修テーマ・ねらい・時間	研修内容
1	「オリエンテーション」 [2時間] ・地域のメディア環境と課題を把握し、メディアニーズを支援する効果の理解を深める。	【講義】 ・地域のメディア環境、メディアニーズの把握 ・メディアサポートの重要性 ・メディアリテラシーの向上
2	「メディア活用の実際」 [6時間] ・ビデオ小作品の制作を通して、撮影、編集の技術的向上を図る。	【演習】 ・グループでビデオ小作品の制作 ・ビデオ撮影の技術スキルの確認 ・文字や音入れ等の編集作業の確認 ・ビデオ小作品の発表と評価
3	「地域行事の支援体験」 [6時間] ・地域行事等での行事記録の演習を通して、地域の方との交流やメディアサポートを体験する。	【交流・演習】 ・地域行事でテレビ局、CATVとの連携活動 ・地域の愛好家や学生等との協力活動 ・行事記録等のメディアサポートの実際 ・地域映像の保存活用に関する著作権等の確認

4	<p>「大学や専門学校機能を活かした支援体験」</p> <p style="text-align: right;">〔4 時間〕</p> <p>・大学等の ICT 機能を活用した演習を通して、ICT 支援を体験する。</p>	<p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や専門学校の ICT 機能を活用した実習 ・スマートフォンやタブレット活用の実際 ・HP 作成やインターネット TV の理解 ・動画配信の技術支援や問題点の把握
5	<p>「成果発表と意見交換」</p> <p style="text-align: right;">〔2 時間〕</p> <p>・メディアサポートの意義を理解し、自己実現を目指す意欲を高める。</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のメディアニーズに応じた活動の意義 ・生涯学習ボランティア、メディアコーディネーターの資質と役割

(全視連副専門委員長 照井 始)

Ⅲ 調査研究のまとめ

社会及び教育における ICT 環境の整備が進み、インターネットをはじめ情報端末等の飛躍的普及によるメディア利用の多様化が定着している。

全視連は、「ICT 化時代に対応したメディア利用」をキーワードに、従来の視聴覚メディアを活かしつつ、ICT を活用した映像コンテンツ提供や学習機会の提供、教育メディア研修等を推進し、時代に対応した視聴覚センター・ライブラリーの活性化支援を強く意識している。そのため、時代に対応した ICT メディア研究やメディア研修の推進、地域映像コンテンツのデジタル化支援、組織間ネットワークの新たな構築、さらには、地域視聴覚ライブラリーの機能改善等にも取り組んできた。

また、文部科学省は、情報化・グローバル化・少子化の急速な進展への対応、グローバル人材の育成等の観点から、ICT を活用した教育の実現を推進している。しかし、電子黒板やタブレット端末等の ICT を活用した教育に積極的に取り組み始めた自治体がある一方、ICT 教育環境の整備計画を有する自治体はまだ少ない。ICT を活用した教育への取り組みにも地域間での差異が生じており、ICT を活用した学びの推進や教員等の指導力パワーアップへの自治体支援をも進めている。その支援内容には、教育等の ICT 活用指導力の向上を目指すための研修センター等の機関研修や学校等での行内研修の研修プログラム、モデルカリキュラム作成等が含まれている。

これらの新たな教育課題への対応として、視聴覚教育指導者としての資質、能力の育成を目的とした研修内容の今日的改善が必要となった。昨年度は、ICT 利用のメディア研修の推進を促す視点から、全視連専門委員会として調査研究を進め、総合教育センターや生涯学習推進センター、視聴覚センターで実際に行われている研修事例を取り上げ、研修プログラムを例示した。

本年度は、未来社会でさらに普及が予想されるスマートフォンやタブレット端末を視野に入れた研修プログラムを考案している。教育の情報化を推し進め、視聴覚センター・ライブラリーの存在意義を高め、ICT 化時代に対応したメディア研修モデルを紹介する。

*モデル 1 : 「映像メディアの基本的な撮影・編集技術の習得に関する研修プログラム」

*モデル 2 : 「これからのメディア教育の指導者を養成する研修プログラム」

*モデル 3 : 「モバイルメディア・ソーシャルメディアを活用したネットコミュニケーション力の向上を目指した研修プログラム」

*モデル 4 : 「ICT 支援員、メディアコーディネーターの養成に関する研修プログラム」

など、現在普及が著しいモバイルメディア等を中心とした研修プログラムを紹介し、教員等も含め高齢者等の日常にも寄り添った仮想研修に触れている。

今回のメディア活用研修モデル事例をベースに、地域のメディア環境やメディアニーズに応じて工夫・活用していただきたい。

(全視連副専門委員長 照井 始)